



“ガス窯作りのプロ集団・大築窯炉工業”の

2007・11月号

月刊 窯ナビ

必ず良いことがある人のために送る！  
DAICHIKUのお得意様向けニュースレター

ウラ面も情報満載

【発行日】2007年11月15日 【発行人】大築窯炉工業 谷口浩司  
〒309-1611 茨城県笠間市笠間2192-5 TEL0296-72-1444 【ホームページ】<http://www.daichiku.jp/>  
ユーザーさん登場 原田省平さん～見たことのないやきものをつくりたい！～



奥様とご愛用の台車式ガス窯0.7m<sup>2</sup> (DA07S)

やきものを始めたきっかけは何でしたか？  
小さいときからモノをつくるのが好きでした。入学した高校に陶芸部があったので入部したら没頭してしまいました。  
益子に来るきっかけは？  
高校、大学と一緒だった親友の田代君が今成先生の下で修業をしていました。彼から益子の話を聞いていたので、非常に影響を受けました。益子には活気を感じました。今成誠一先生がつくり出す「塊魚(かいぎょ)」や伊賀では見たこともない多種多彩の作品には魅力がありました。  
弊社のガス窯をお選びになった理由は何でしょうか？  
評判を聞いて良さそうな感じがしました。  
5回ほど焼きましたが、温度が自分の思ったとおりに上がってくれて、操作も簡単でとても扱いやすいと思います。今まで扱ったことのある窯より燃費もよく、とても満足しています。  
これからどういう作家活動をしていきたいですか？  
今まで見たこともないような「やきもの」をつくってみたいです。  
オブジェを中心に展開して、常に新しいものを出していける作家になりたいと思います。

**【略歴】**  
1980年 大阪生まれ  
1996年 大阪柏原高校時代 陶芸部に入部  
1998年 奈良芸術短期大学陶芸コース入学  
2002年 奈良芸術短期大学陶芸専攻科卒業  
2002年 伊賀焼長谷製陶株式会社入社  
2005年 今成誠一氏(益子焼)に師事  
2007年 愛知に築窯、独立

うれしい！楽しい！大好き！ダイチク！ メッセージ

学生時代から陶芸に没頭し、20代ですすでに陶芸歴は10年を超え、しかも職人の経験もあるという原田さん。「今まで見たこともないやきものをつくりたい！」という将来像は夢ある一言だと感じます。どんなものが出来上がるのか、とても楽しみな27歳です。



「炉歩人(ろぼと)」  
上下で二つになるロボット型の近未来版香炉。同じものが二つとないので陶芸作品にもかわらず「シリアルナンバー」がついているという凝った作品。これは確かに「見たこともないやきものだ！」マニア垂涎の一品！！

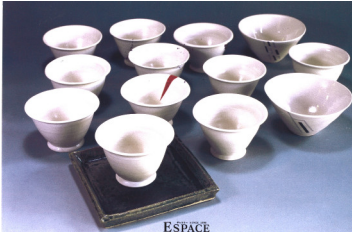
お売りください！使わなくなった窯 その他陶芸用品 m(。)\_m

使わなくなったガス窯がございましたら弊社にご連絡ください。責任を持って処分、もしくは修理して新しい方にマッチングいたします。電動ロクロや手ロクロ、陶芸用機械、釉薬原料、釉薬、粘土、カンナやヘラなどの小物、なんでも結構です。ご連絡くだされば担当者がお伺いいたします。また、(大きくて)古いガス窯の取り壊しをお考えの製陶所様、ご連絡ください！安全に格安で処分いたします。 ☎0296-72-1444まで

**ユーザーの個展・展示会の情報募集**  
大築窯炉工業ではユーザの個展・展示会の情報を募集しています。ダイレクトメール(DM)などの案内書ができましたら、弊社までお送りください。当ニュースレター「月刊・窯ナビ」やホームページ上でご紹介させていただきます。グループ展や小さなイベントでもOKです。どしどしお寄せください。費用は一切かかりません。  
**お客様に学ぶ今月の格言！**  
「今まで見たこともないやきものをつくりたい！」  
[いつも新しいものに挑戦し続けようとする気持ちを示すことば。まもりに入らず、常に攻めの姿勢でいるスピリットを感じます]

**ガス窯・電気窯/ダイチクの貸し窯**  
ガス窯0.4m<sup>2</sup>・・・本焼き15,000円・素焼き5,000円  
電気窯8kw・・・本焼き3,000円・素焼き2,000円  
電気窯10kw・・・素焼き3,000円  
初回焼成指導料(任意)・・・5,000円  
・使用期間中はポットミルの使用は無料  
・電子レンジ・仮眠室あり(無料)  
お申込みは、直接または0296-72-1444(金沢)まで

## ユーザーさんの個展情報



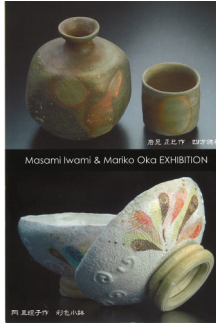
### 井上健作陶展

ギャラリーエスパース  
〒312-0018ひたちなか市笹野町  
2-2-7JSK第2ビル1F  
TEL029-276-3323  
Fax029-276-3324  
2007年朝日陶芸展 入選  
益子陶芸展ほか入選



### 沼野委章 展

GALLERY淡風荘  
宇都宮市桜4-16-21  
028-622-3309



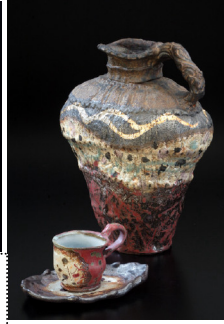
### 岩見正巳・岡真理子作陶展

カフェギャラリー陶  
〒300-0871土浦市荒川沖3-1-4  
TEL029-841-1787Fax029-841-5671



### 岡本芳久 作陶展

松屋銀座7階 アートスポット  
お問合せ：銀座松屋7階アートスポット  
電話03(3567)1211大代表



### 耶朱万侶 作陶展

笠間焼 かつら陶芸BAGUS2F  
〒309-1626笠間市下市毛47-3  
TEL0296-72-6688

## ガス窯作り・こだわりの道具 HVLV塗装機 ~ 人と環境に優しく高品質な塗装 ~

弊社で使用している塗装機は従来のスプレーガンとコンプレッサではなく、HVLV塗装方式と呼ばれる塗装機を使用しています。一般的な塗装機の場合、高圧エアで塗料を霧化するため、塗料粒子が大量にはね返り、作業者にかかったり空気中に飛散したりします。従来品の塗着効率は15~35%と言われています。これは塗料の無駄が多いということだけではなく、塗装環境を非常に悪くしていること、また、作業効率が悪いことも示しています。HVLV塗装方式は超低圧エアを大量に使って、霧化する方式で、塗料粒子の緩やかな流れを作り、塗料の飛散を極力抑えた「人と環境に優しい塗装」を実現している塗装機です。塗着効率は最大で86.9%というものです。この塗装機を使用すると品質の高い塗装が可能です。スプレーガンから同時に送風される乾いた空気が塗料の乾きを早くするため、タレやナガレが少なく仕上がります。特に、シビアな膜厚が要求される耐熱塗料では欠かせない塗装機といえます。



この塗装機を使うとタレ、ナガレが少なく美しく仕上がります。



使用中のスプレーガン

## 日本酒の季節

秋もだんだんと深まってきて日本酒がおいしい季節となってきました。お酒好きは「酒は百薬の長」といい毎日のお酒を楽しんだりしますが、お酒の飲めない下戸といわれる人は「酒は身を削るカンナだ」と言って見向きもしません。しかし、いくら百薬の長とはいえ、飲みすぎは良くありません。「酒は飲んでも飲まれるな」というように、だいたい2合程度が良いところかなと考えています。過ぎたるは及ばざるが如し、度を過ぎると薬も毒になってしまいます。小さな杯でチビチビやっているうちはいいのですが、これが「ぐい呑み」になり、コップ酒になって、口のほうからお酒に近づいていったら黄色信号です。ちゃぶ台にこぼれたお酒をもったいないと言って、チューチューすったりしたらもう赤信号。意地汚さは酒飲みのお敵です。徳利で飲むとき、底を真上に上げたりしてはダメです。ましてや上下に振ったりしては、もう嫌われてしまいます。「面倒くさい」と言って、土瓶ややかんで飲むのもいけません。飲んだ後の運転は必ず飲んでない人にお願ひしましよ



## やきものと水(水分)

ご存知のように「やきものと水」は切っても切れない関係にあります。粘土を作るところから焼き終わるまでと言っても過言ではないでしょう。では、焼いているときはどうでしょうか？ 私たちがガス窯を納入し、最初に窯焚きの仕方をお教えるとき、点火直後は扉を「少し開けておく」か「閉めてしまう」かで話題になるところがあります。これは水分の抜き方に関係してきます。本焼きでは大きく「あぶり」と「せめ」とに分かれますが、その「あぶり」の前半は水分をどう取ってあげるかです。が、問題は素焼きのときです。素焼きでは0から500~600 位まで水分があります。その水分とは、成形した作品を素焼きする前に十分乾燥させて水分は除きますが、見た目乾燥していても3%位の「結合水」という水が残っているといわれています。結合水はさらに吸着水、沸石水と粘土の結晶構造の一部となっている結晶水に分けられます。これらの水分は粘土の分子レベルに入り込んでいることが多いので、室温で乾燥したくらいでは抜けません。室温で乾燥させ取れるのは「付着水」「自由水」と呼ばれるものです。付着水は水の沸点である100 までにおおよそ除去できますが、吸着水や沸石水は200 くらいまで加熱が必要であり、結晶水に至っては500~600 くらいまで温度を上げないと抜けない水分です。素木洋一先生によると「よく乾かさないと窯に入ると300 付近で素地は粉々に割れてしまう。水が急に膨張して蒸気になると大きな圧力がかかり、ほとんどの素地は圧力に耐えることができない。」とあります。私の経験では、よく乾燥させた作品でも、電気窯250 付近で粉々になったことがあります。しかも棚板まで割れるというすさまじいものでした。これは水分によるものなのか、石英の膨張によるものなのかは定かではありませんが、いずれにせよ急に温度を上げて分を取ることは失敗の原因になるようです。(参考文献：陶芸のための科学・素木洋一著)

## 編集後記「あとかんげん」

「本屋がなくなる」という新聞記事を読みました。内容は、06年度、1,000店弱が廃業、大半が町の中小零細の本屋だそう。その一方で都会では大型店が次々とオープンしているとのこと。とはいえ、書籍の原価率は8割、これでは売れないとたいへんな訳です。この記事を読んで思い出したことがあります。もう20年以上も前、「トーン」でのアルバイトです。仕事は出版社から集まってきた本を仕分けする事です。台の上のおびただしい本を、4桁の番号がつけられた下駄箱のような棚に入れていく。今で言う「フリーター」だったあの頃、まったくお金がなかった私は、雑誌すら買えなかったので、バイト中ときどき読みたい本が目にはいると、10分間の休憩時間にむさぼるように読んでいました。ふと回りを見ると、やはりみんな読んでいました。日本の出版物は取次店を通して各書店に送られてゆくシステムになっています。その取次店は「トーン」と「日販」しかありません。つい最近まで、読みたい本を注文すると10日から2週間要していましたが、今ではネット！2,3日でもってきてくれます。ということは、今では私の10倍位すばやく動くフリーターたちが、たくさんいるんですね？